

「こころの健康社会を目指す」（2013年6月29日 やどかり出版発行）

おわりに

こころの健康の問題は、すごくパーソナルな問題でもあります。実際に影響を受けている方の数を考えると深刻な社会問題です。この私もうつ病を発症し、すでに10数年の時を奪われています。しかし、僕の状況はまだまだ良いほうで、当事者をはじめご家族、パートナー、周囲の方など、もっと苦しめられている方がたくさんいらっしゃいます。

いじめ、体罰、虐待、自殺……これだけではありません。身近なことでこころの健康をくずされていることが多いのです。ですが、こころの健康の問題を表沙汰にして考えるということが、未だ日本の社会では実現されておられません。むしろまだ隠すことが多いのです。ですから、こころの健康政策構想会議で提言をつくり、提案し、署名を集めることに、大きな意義があると思っています。

こころの健康をくずさないように予防することはなかなかできません。でも、もしこころの健康を崩しても、孤立せず安心して暮らせる社会であるべきだと思います。

また、この国に住む以上震災は免れることは難しく、震災時、それ以降のこころの健康の問題はみんなで力を合わせて考えていく必要があります。

私はこの考え方に迷いはなかったのですが、反対する方など現れないと思っていました。しかし、国会で私たちが出した請願は採択されず、いまだ提言は実現していません。せっかく超党派でできた議員連盟も政局が一変し、動向が読めなくなりました。

もっと私をがっかりさせたのは、2012(平成24)年12月に行われた衆議院議員総選挙の投票率の低さでした。今までとこれからの国に対して国民が意思表示が出せる機会なのに……。また、乱高下する株価などの根拠がはっきりしない景気の状態にも不安は隠せません。

この国を、この社会を国の上のほうから変えるのは大変なのだ痛感しました。ましてやこの国の情勢で、たしかなものとは断言できるものは多くはないでしょう。

しかし、それは新たなアプローチを考えるよい機会となりました。事例をつくる、地域から変える、教育の現場に働きかけるなどアイデアが生まれています。

もちろん、72万超の署名が集まったこと、全国各地の地方自治体での意見書

採択は紛れもないみなさんのご協力による賜物です。ただ提言書の内容を具体的に実現するにはまだ時間がかかりそうです。しぶとくしなやかな力が必要とされることでしょう。

既にご協力をいただいている方に感謝を申し上げますとともに、これからもこの活動がさらなる広がりを見せ、実現へ向けて進むことができるよう、お知恵、お力をいただけるようお願い申し上げます。

2013年5月

黒川 常治

(こころの健康政策構想実現会議運営委員)